

科目名 **古典探究**

国語科 必修
2年次・2単位

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 目標
- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
 - (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
 - (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

位置づけ 一年次の言語文化に引き続き、古典分野の知識を身につけ、教養を高めていく。三年次でも二単位実
施。

■使用する教材

- ・教科書「精選古典探究 古文編」(東京書籍)
- ・教科書「精選古典探究 漢文編」(東京書籍)
- ・問題集「マーク試験のための基本練習 古典10」
(尚文出版)
- ・参考書「カラー版新国語便覧」(第一学習社)
「わかる・読める・解ける key&point 古文単語330」
(いいずな書店)
「読解をたいせつにする体系古典文法」(数研出版)
「基礎から解釈へ漢文必携」(桐原書店)

■学習する単元とおおよその時期

- 歌物語(「伊勢物語」等)
- 小話(「不死之薬」等)【4～5月】
- 軍記物語(「平家物語」等)
- 漢詩(「江雪」等)【6～9月】
- 作り物語(「源氏物語」等)
- 史記(「項羽」等)【10～12月】
- 歴史物語(「大鏡」等)【1～2月】

■授業の流れ、予習・復習を含めた学習方法

【共通】授業の始め10分を使って小テスト等を実施し、古文・漢文の基礎知識を定着させる。

○予習復習

【古】各自で本文を一通り読み、文法の確認はしておくこと。

意味を判別できない古語は各自調べること。

【漢】一通り書き下し・句法の確認をしておくこと。

■観点別評価について

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	A 【古文】基本的な語彙、文法の知識、時代背景や古典世界の基礎知識を身につけることができる。 【漢文】句法を初めとした口語訳に必要な知識を身につけることができる。	作品の読解を通して過去の考え方や文化を理解し、現代の考え方や価値観、文化との違いを考えることができる。	関連する作品について調べたり読んだりして、より広く深く古典知識を身につけようとしている。
	B 上記を概ね達成できている。	身につけた知識や技能を元に、古文・漢文を口語訳することができる。	教材や古典に関わる知識に関心を持ち、積極的に学ぼうとしている。
	C 上記が達成できていない	上記が達成できていない	上記が達成できていない
評価の場面	定期考査、単元テスト 小テスト 課題の提出内容	定期考査、単元テスト 授業中の発言内容 課題の提出内容	授業中の参加態度 課題の提出状況

■領域ごとの授業時間数について（国語科の新学習指導要領科目のみ）

単元名	【古】歌物語	【漢】小話	【古】軍記物語	【漢】漢詩	【古】作り物語	【漢】史記	【古】歴史物語	
話すこと・聞くこと								
書くこと								
読むこと	9	9	9	9	10	9	9	